

# 就任の挨拶



日上市立助川中学校  
教頭 田崎 喜広

この度の人事異動により、県立日立第一高等学校中学校より赴任して参りました。地域の皆様に支えられ、歴史と伝統のある助川中学校での勤務を命ぜられ、大変光栄に存じます。生徒一人一人が「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」を身につけ、目標とする進路実現に向けて努力できるよう支援に努めます。地域に育ち、地域の未来を担う生徒一人一人の健全育成のために、引き続き地域の皆様のご支援ご協力の程、お願いいたします。

感じたことを話したくて仕方がない会瀬の園児たち。やはり、会瀬っ子の基が育っています。幼保小中の連携を進めていくために、この扉一枚を有効に活用したいと考えています。ご支援ご助言をどうぞよろしくお願いいたします。



会瀬小学校PTA  
会長 白土 文承

今年度新しく会瀬小学校PTA会長になりました白土です。地域の皆さまには、日頃から子どもたちの見守り、校外活動のご支援、環境美化作業など多岐に渡りご協力いただき、誠にありがとうございます。会瀬小の子どもたちが安全に楽しく生活が送れているのも、学校の先生方と保護者の皆さま、そして地域の皆さまの密接なつながりで成し得ているものと思っています。

PTAは「すべては子どもたちのために」を合言葉に活動しております。子どもたちにとってより良い生活環境をつくっていくため、これからも地域の皆さまのご支援ご協力をいただきたく、よろしくお願いいたします。



# 会瀬学区社会福祉協議会

【見守り活動】  
会瀬学区の世帯数は2571、人口は5574人です。

ひとり暮らしの高齢者や寝たきり高齢者、そして介護保険で要介護3以上の方で見守りを希望している方が学区内に94名おられます。

この方々への地域で協働支援Ⅱ見守り活動するのが、会瀬学区社会福祉協議会の「あんしん・安全サポート委員会」です。

役員、委員、近隣協力者、ボランティア、民生・児童委員が見守り活動員となり総数100名で見守っています。

多くの方々と構成されていますので連絡調整の取りまとめ役が、あらたに選出された福祉区連絡員になります。

各地区の福祉区連絡員の紹介

- 旭・相賀地区 園部 文子
- 会瀬1丁目地区 佐藤 光義
- 会瀬2・幸町地区 白土 京子
- 会瀬3・4中成沢地区 鎌田 勉
- 東成沢地区 今橋 えつ子

# 【ふるさと会瀬】から

## 70年前の会瀬

柴田勇一郎編「写真集 思い出の鉱山電車」(1989年刊行)に掲載された鳥瞰図は会瀬の昭和10年代の姿をしのぶには恰好なものといえる。会瀬小学校が会瀬国民学校と改称したのが昭和16年であり東向きの初代校舎に南向きの校舎を増築したのが昭和18年であることからこの図は昭和18年から19年(1943年から1944年)の日立の中心部を描いたものである。

当時描かれたものでなく編集した柴田氏の記憶をもとに現在も活躍中の飯土井博氏が作成したが、会瀬を生活の拠点としていた柴田氏であるから当時の姿をうまくとらえている。日立製作所海岸工場の建屋をみても巨大な工場群が出来上がっていた。注目したいのは工場正門から山側の上台と言われた台地(小平記念館がある台地)に多くの工場建屋があったことで会瀬小学校からも望見できた。

当時の道路状況は不備で会瀬から工場への通勤や日立駅に行くにも図の「寺の坂踏切」や汽車道に沿った急な「寺の坂」を通った。この踏切は有人であり会瀬の住民にとっては駅への安全で確実な経路であった(現在の国道245号線は昭和24年頃開通)。舗装されていたのは工場正門前から駅の間で工場に沿った道だけであり雨天時の通勤通学には苦勞したものだ。

特に旭・相賀の子は正門橋がなかったから常磐線の無人踏切を渡り会瀬小学校へと通った。駅への道路には工場内への鉄道引き込み線が駅の陸橋までに5か所もあり有人踏切はなかった。

トンネルのような会瀬洞門から十字路へ行くが昔から十文字と言われ会瀬の中心地であり村の鎮守の鹿島神社が鎮座していた。海岸へ出ると大門崎(おおもんざき)とか鶴島(近頃はたこ島)が砂浜とともに描かれており、低い岩礁に囲まれた舟入り海岸はおだやかな広い海水浴場になっている。

しかし荒天時や大潮の満潮時には津神社を越えて行くのは困難であった。

初崎の磯場には岩に囲まれた水たまりを「ダマ」と称した子どもたちの素晴らしい水遊び場所があり、磯と広い砂浜や砂丘のある変化に富んだ、にぎやかな初崎海水浴場だった。洞門から西は稲荷山からの台地に小山社宅から会瀬野球場・会瀬グラウンドそして会瀬社宅と日立製作所関係の施設が国道まで続いた。その国道も兎平から助川小学校まで松並木が続き昔の浜街道の名残があった。

